

## 第1回検討委員会における主な意見

## 【 森林整備のあり方について 】

- ・ 市民は保健・レクリエーション・文化景観の機能を森林に求めている部分が多いという風に思う。
- ・ 機能の比較だけでなく地域の状況も踏まえ、緊急性の高いものを重視すべき。
- ・ 多面的機能の面から緊急性という話になると、防災は専門家の検討ではたぶん上位になると思う。
- ・ 集落があと何年残るか、その森林自体を管理している人達が山からいなくなり、地域・コミュニティーがなくなってしまうことを考えるとかなり緊急性を要するのではないか
- ・ 緊急性の観点から、このまま森林に手を入れないと機能が失われるところを仕分けし、そこでどういう施業が必要か専門部会で検討する必要がある
- ・ 今手を入れれば少ないコストで元に戻せるが、10年してこれを再生させるとなると非常に大変で、コストもかかれば年数もかかるという部分に対して緊急性がある。

## 【 財源のあり方について 】

- ・ 既存の予算、国税との関係を整理する必要がある。
- ・ 仮に税を導入する場合、目的税とすることの意味を整理し、一般財源で対応できない理由や緊急性の説明が必要。
- ・ 財源確保の方法は、税以外にも寄付、クラウドファンディング等も考えられるのではないか。
- ・ 財源確保の方法として、受益者負担と税の広告効果の両方の視点が必要。
- ・ 仮に税となる場合でも、なぜ森林だけなのか、他の政策分野(交通対策、空家・空地対策等)との関係を整理し、森林としての特殊性等の理論武装が必要。